

地球地図プロジェクトについて

○地球地図プロジェクトについて

地球地図プロジェクトは、地球環境問題の監視・分析等に必要な地球に関する基盤的な地理情報のデータベース（地球地図データ）を世界各国の地図作成機関の自発的協力の下で整備するプロジェクトで、日本国の国土交通省（当時は建設省）が1992年に本プロジェクトを提唱し始めました。

プロジェクトの進行管理は地球地図国際運営委員会（委員長：フレーザー・テイラー氏（カナダ国カルトン大学教授））が担当、事務局は日本国国土地理院が担う。現在の参加国は149カ国、データ公開国数は23カ国です。

現在、2007年の地球地図データ（第1版）の完成・公開を目指し、進めています。

○地球地図データについて

地球地図プロジェクトで整備する地球地図データは、以下のような特徴があります。

- ・ 1 kmの解像度（縮尺100万分の1の地図に相当）
- ・ 8つのデータ項目（海岸線・行政界、交通網、標高、河川・湖沼、人口集中地区、土地被覆、植生、土地利用）
- ・ 地球の全陸域を統一仕様でカバー
- ・ 5年ごとに更新

○主な利用用途例

（1）地球環境分野

例、土地被覆データ等により、砂漠化、熱帯雨林の減少等の進行状況把握

（2）防災分野

例、スマトラ沖大地震等の広範囲の自然災害の被害状況把握

（3）政策立案

例、土地利用や水資源の変化を将来予測することにより、適切な政策立案の基礎資料として活用

（4）教育分野

例、「地球地図の学校」の様に、教材として活用

地球地図プロジェクト

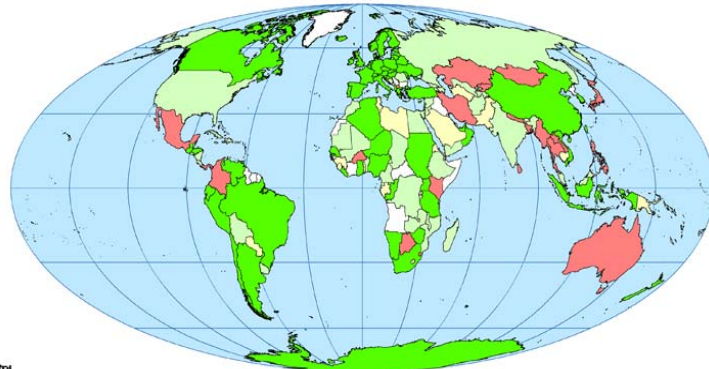
別紙1-2

日本が提唱

【世界各国の協力で整備】

現在、149カ国の国土地理院が参加
23カ国のデータを公開
地球地図国際運営委員会が推進（事務局は日本国土地理院）

【地球地図プロジェクト進捗状況】



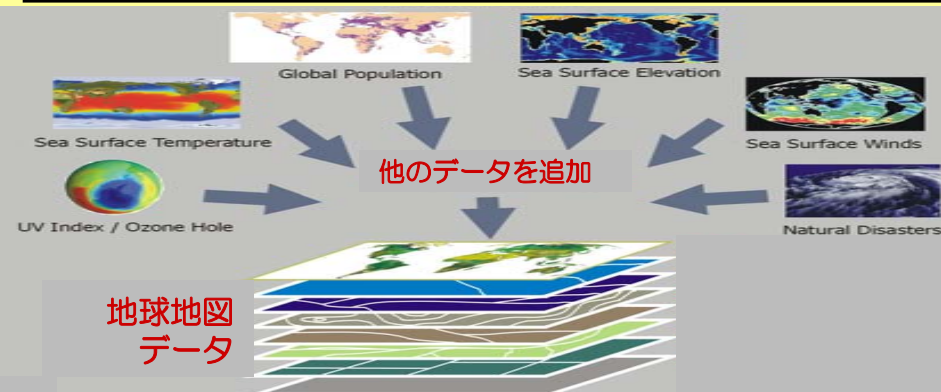
凡例

- データ公開中
- プロジェクト参加を検討中
- データ検証中
- プロジェクト未参加
- データ作成中

地球地図は、地球環境問題解明に必要な地球の基盤地理情報DB

地球地図とは・・・

- 1 kmの解像度（縮尺100万分の1相当）
- 8つのデータ項目（海岸線・行政界、交通網、標高、河川・湖沼、人口集中地区、植生、土地利用、土地被覆）
- 地球陸域を統一仕様でカバー
- 5年ごとの更新



地球地図データ、又は地球地図データに目的に応じた他の観測データ等を組み合わせると、砂漠化等の地球環境のモニタリングが可能

1992年

日本が提唱

2002年

ヨハネスブルグサミットで
地球地図整備のための行動が奨励される

【データ整備へ向けた足取り】

2007年

データ完成目標
（第1版）